別添1

# 人口減少定常化分科会　活動報告

## （１）県内小規模高校との意見交換会

実施日時：令和６年９月９日（月）　午前 10 時 30 分～午後 0 時 30 分
会　　場：中部総合事務所Ｂ棟２階　第 205 会議室
出 席 者：（委　員）福田主査、坂野委員、鹿島委員、西村委員、入江委員、前田委員
（相手方）県内小規模高校　６校
青谷高校 三浦校長、足立教頭、岩美高校 辻中校長、
智頭農林高校 岩本校長、徳永教頭、倉吉農業高校 竹内校長、
鳥取中央育英高校 山田校長、日野高校 坪倉校長
内　　容：「地域と連携した学校の特色・魅力づくりについて」をテーマとして、県内小規模高校における魅力化の取組を発表していただき、質疑応答、意見交換を行った。

### ○各学校の主な取組

・地域の自然、歴史、文化、産業などの資源を活用した探究的な学びの実施
・シーカヤックやシュノーケリングなど自然を体感できる授業
・地元商店街における生産物の販売
・地元農産物のブランド化（青パパイヤ）
・小中学校と高等学校間の交流、連携
・デュアルシステム（学校と企業が一緒になって）

### ○主な意見、質疑応答

・学校の魅力化の取組を県民にも伝えることが必要。県内の中学生へどのように周知しているのか？
→ 魅力化コーディネーターが広報冊子を作成し、町内中学校に配る。
・コーディネーターの配置人数は、各学校により差が大きい。
・県内就職して残ってもらうためには、優遇、補助などインセンティブが必要。
・豚や梨などいい物産はあるが、どのようにビジネスにつなげていくのか重点的に取り組む必要がある。
・鳥取県の産業を支えているのは専門高校であり、ここを守っていかないといけない。普通科志向の中で専門高校の魅力を理解してもらうことが必要。
・高校生議会の際に担当した生徒が、二人とも県外生徒であり、入学理由を聞いたら、チラシを見て地元には全然ない環境であり、軽い気持ちで来たと言われていたが、そういった動機付けになることが大事だと思う。
・寮が整備されていることは親にとっても魅力の一つである。
・鳥取市では、他の町のように住居への支援がない。
・県外から入学した生徒の親が、移住してきたという事例があった。

## （２）現地調査（智頭町における子育て環境整備・移住推進）

実 施 日：令和６年９月 10 日（火）
出 席 者：（委　員）福田主査、坂野委員、鹿島委員、西村委員、入江委員、前田委員

### ≪ 調 査 １ ≫

時　　間：午前 10 時 30 分～正午
会　　場：空のしたひろば すぎぼっくり（森のようちえん）
出 席 者：（相手方）森の子そだち舎 西村代表理事、すぎぼっくり 松本園長
内　　容：県外から移住して子どもを入園させる保護者もいるなど、全国の一歩先を行く子育て支援である「森のようちえん」を視察。

〇調査概要

・森のようちえんでの活動内容を見学。調査日は、東京藝術大学のプロジェクトで学生がヤギを活用したフィールドワークを園児と一緒に行っていた。
子どもたちは遊具で遊んだり本の読み聞かせを聞いたり自由にしながら、ゆるやかに全体活動に誘導できるように進行を進めていた。
・「世界でいちばん自由な学校」といわれるイギリスのサマーヒル・スクールのニイルの思想や教育などが活かされている。
・今までの義務教育課程が向いている子もいれば、それを拒否する子どももいる。その拒否する子どもの気持ちを否定せず、そのような子が楽しく過ごせる活動場所が必要。

### ≪ 調 査 ２ ≫

時　　間：午後１時 30 分～３時
会　　場：智頭町役場 第一会議室
出 席 者：（相手方）県外から智頭町への移住者２名、
森の子そだち舎 西村代表理事、智頭町企画課 寺谷主事
内　　容：智頭町における移住支援について、町からの説明。
実際に智頭町に移住して来られた方に、移住の動機や、智頭町を選んだ理由を尋ねるなど、意見交換を実施。

〇調査概要

・智頭町においては「空き家、土地情報バンク」「空き家再生住宅」、「おためし住宅」など、移住者向けに居住物件のサポートや、空き家を利活用する場合の支援、新婚世代へのＵＩＪターン応援金の交付、進学した学生がＵターンしてくれるよう奨学金の元金相当額負担や優遇ローン等を実施。
・H22～R5 までの間に、199 世帯 427 人が移住してきていて、うち 74 世帯 146 人転出。
・Ｒ３年「智頭町複業協同組合」が設立し、現在、飲食業、幼稚園、森林組合、観光協会など 13 社が参画。

・森のようちえんについては、関わる人とタイミングがとてもよかった。寺谷元町長がとても精力的に動いており、行政の助力も大きかった。

（移住者の紹介、意見）
・大阪府から移住。子どもが二人森のようちえんに通った。
・岡山県から移住。子どもを学校に行かせないという選択をして、森の中で育てたいと考えた。智頭町内にも家を購入し、二拠点居住を始めた。
AI や英語など便利なことを知りながら、同時に五感を育てたいと思った。

（質疑応答）
・人口は市町村同士の奪い合いではだめで、流出を防ぐために必要な取組は。
→ 移住前にどのような暮らしをイメージしているのかしっかり聞き取ることが重要。森のようちえんでのコミュニティや、自治会での活動など住民との交流を推奨。
・副業組合は、組合数が少ない中で、マッチングが難しいのではないか。平等に配置できているのか。
→ 平等とはいかないが、繁忙期だけ派遣をするなどしている。登録していながら派遣を受けられていない組合は０だったと聞いている。
・移住されてきた方の職業は主に、①フリーランス（アーティスト、デザイナー）で約７割。②父親は他県で働く母子移住。③自給自足が数件。④移住して組合などで転職。

**≪ 調 査 ３ ≫**

時　　間：午後 3 時 15 分～4 時 15 分
会　　場：①BASE ConnecT、②県外生寮、③智頭農林高校
出 席 者：（相手方）コーディネーター２名、智頭農林高校 岩本校長、徳永教頭
内　　容：智頭農林高校における地域と連携した魅力化の取組み等について現地調査

〇調査概要
①BASE ConnecT（フリースペース）
・高校と離れた学生の居場所であるサードプレイスの位置づけ。学習塾の一角にあり、コーディネーターが交代で勤務している。
・生徒のやりたいことを実現する活動をしており、クレープづくりや映画上映会、ゲーム大会などを実施している。
②県外生寮（外観のみの見学）
・今春設置された寮は定員３名だが、現在入居者は１名。寮のオーナー兼カフェバーを経営する寮母さんにあいさつし、学生が心細くならないよう、イベントへの参加に誘ったりするなど気をかけている等の話を聞いた。
③智頭農林高校
・岩本校長の説明を聞き、徳永教頭に校内案内をしてもらった。木工制作や、藍染めの作業室など、地域資源を活用した授業が行われている。
・農業林業や水産業といった、一次産業に携わる生徒を育てる機関というのは、非常に重要。
・生徒からの意見として、合計特殊出生率を上げるためには、若い人が子どもを産んで育てられるような環境整備する必要があるとの意見があったとのこと。